

# 今こそ「人」の心を教育を

社会教育委員 帯賀信義

最近 青少年による問題行動が、大きく社会問題として私たちに訴えている。  
近年 子ども達には、活字ばなれ、学校ばなれ、家庭ばなれ、親ばなれと、ばなれ現象がおこっている。これらの「ばなれ」現象は、自立へむかっているのだらうか。いずれ、一人の人間として自立し、自らが生きる展望をもって生きていかなければならないが、その生き方に向った行動であるうか。どうも、そうとばかりとは言えない気がしてならない。  
どうして このような問題行動がおきるのだろうか。  
本来子ども達は 勉強したい、みんなと仲よくしたい、みんなと遊びたいという願いをもって、それがどうして 人をいじめたり、暴力をふるったりする子どもになったのか。それには、何か理由なり要因があるはずである。  
問題行動をした子ども達のつ

する人がいるようです。落ちこぼれにしたのは誰か。責任はどこにあるのか。本人たちは「どうせオレは落ちこぼれよ」とふてくされるようになっていったのはどこに原因があるのか。  
いったい「落ちこぼれる」とは、何から「落ちこぼれたのか」「落ちこぼれる」ということなら、何を基準にしてそういうことにならなければならないのか。  
いい中学へ、いい高校へ、いい大学に、そして、いい会社に入るという人生が設定されてい、そこへたどり着くまでに、どこかの段階で「落ちこぼれる」という人生観、社会観が親や地域社会の人々の中にあるという、これも要因の一つではないだろうか。



喜代子 永い間小学校教育に携わってきたが、基本的に、一〇〇人の人生があると考え、教育してきまし

## 「近東伊太利航路」の思い出 (10)

秋本 俊之

大連港を出発し、朝鮮の西の黄海を南下し朝鮮海峡の済州島近くにさしかかると、海流に流されてくるのか、無数のクラゲの大群に出会った。  
瀬戸内海のクラゲは白色で直径三〇センチのものばかりだけれども、このクラゲは直径一米位の薄茶色をした大型のものばかりで、海の水が一面のクラゲで、びっしり覆われた光景には驚いた。  
それを通過して朝鮮海峡にさしかかると、玄界灘に出て今度は北東の風が強く吹き荒れて、会場には三角波が立ち、そのしぶきがデッキの上にあがるくらいだった。  
静かな連日の航海には乗組員も退屈なので、船の中央の上甲板のデッキの上のハンドレールに寄りかかると、電線に雀のいる状態で十数人がしける海を眺め乍ら一時を過ごしていた。その時、船体が二三〇度傾くローリング（横ゆれ）やピッチング（縦ゆれ）を繰り返して、強い波のしぶきがデッキをぬらす状態だった。

その時横ゆれした途端、一番サイド側に立っていた北海道出身の若いボーイさんが、足を滑らして海中に転落してしまった。  
さあ大変な事が起きたと早速ブイ（救命胴衣）を二・三個投げ入れた。海は強風で三角波が立っていたので人の影は直ちに見えなくなった。直ちにブリッジに通報して船を旋回して、元の所へＵターンしたけれど、その時すでに本船は二・三百米位走っていたと思われる。時間も午後四時頃だったと思ふが、元の場所と思われる所を二・三時間もぐるぐる回り乍ら、転落者を発見すべく夕暮れまで乗組員全員デッキ上で懸命の観視を続けたけれど、ブイだけが浮いて流れて居るのが見えただけ、人の姿は終に見えなかった。転落者は目の前に本船の姿を見乍ら、自分を発見してくれないもどかしさに泣いた事と思われる。  
終に夕暮れが迫って来たので、捜索作業は打ち切らざるを得なかった。  
門司港に入る前の突然の出来なので、その晩は空室に小さな祭壇を作り、通夜して遭難者の冥福を祈って過ごした事だった。  
往航の時、下関を出港し東支那海あたりで、同じ会社の日本に帰る他の僚船より一御安航を祈る、との電報を数通受信して南下して出たが、今度の航海では、最終港のイタリアのゼノアで、無線局長長病・現地入院、そして、この度の事故で一人を

招かれて出席し、その語らいの中で「ぼくは、よう勉強はできませんでしたが、あの頃は楽しく面白かった」と言ってくれました。成績はあまりよくなかったけれど、学校へ行くのが楽しかったというのである。このことは、学校には、いい仲間がいるという人間教育があったからだと思ふ。  
先般の同窓会に出席した者の中には、結婚して平凡な生活を送っている人もいる。また、会社の経営をしている人もいて、それぞれその人生、生き方があって当然である。  
知識や技術を身につけることは大切であるが、そればかりを身につけるのが能くない。学校の学校たるゆえんは、全人教育という原点にかえり、そこで人間教育が行なわれているかどうかで、存在理由が問われるべきであると考えられる。  
今日、青少年の非行問題をおこしているのは社会の要請として、あまりにも知識、技術だけを身につけることに力を入れた。倫理観を忘れた生き方をしている大人社会に責任があるのではないか。



- 九月町内各種団体行事予定
- ◆小学校(幼)
    - 始業式 一〇日
    - 給食開始 一〇日
    - 水泳記録会 一〇日
    - 弁当始め(幼) 一〇日
    - 団体長会 PTA役員会 一〇日
    - おひさまおぼろぎ 一〇日
    - 秋季運動会 二〇日
    - おたのしみ会(幼) 二七
  - ◆尚寿会
    - JAソフトB大会 二〇日
  - ◆子ども会
    - 県ソフトB三原予選会 三〇日
    - 市子連ソフト・キック 一〇日
  - ◆女性会
    - 親睦会 上七 中二 下二〇日
- 盆行事のお礼と 町民運動会をお願い
- 八月一五日に行ないました盆行事にはたくさんのお出でをいただき、盛況裏に終えることができました。謝。
- 毎年小学校運動会の後行なっています町民運動会を、今年も二四日(日)午後から予定しています。老若男女たくさんのご参加をお待ちしています。
- 町内会連合会
- 時は流れ、風景は変わった。戦後の食料難は今昔の物語。免れも、今ではこれなく風景の変化に支障もです。風景の変化の速さには、ただ驚くばかり。今年四月出井信之(三益)さんが、新聞社との対談「新世紀を語る」のなかで、IT(情報技術)は「犬の年齢」といって一年が七年のスピードで進んでいる、と語って居られる。十五年前の私の恋文(会議資料)をみても、全て手書き。今では考えられぬ資料づくりでした。若い頃、「湯の街エレジー」に足を運んだのが懐かしく思い出されます。現代版湯の街エレジーは直接的で風景の変化をまざまざと見せつけます。▼変らない風景に政治と官庁があります。政治の世界は何期勤めたかが処遇のウエイトを占め、官庁は何年組が全てとの印象を与えます。これで変化への対応ができません。高橋生が一番なりたくない職業は政治家がトップ。と先月のNHKが伝えていました。官庁は安定した就職先として選んでも、生き甲斐の場であるどうか。▼十年経てば七〇年の変化と出井さんは言われますが、百年一日の世界も又健在です。伝統を変化に耐えなければ生き残れない宿命を負うのが民間企業。

